

大規模事業

キャンパス移転計画

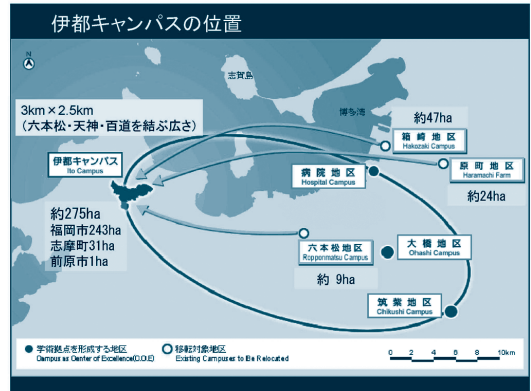
●移転の経緯

九州大学は、専門教育と全学教育の統合・連携などの教育研究上の要請とキャンパスの老朽・狹隘改善を含めた安全性等の確保のために、1991(平成3)年10月、福岡市西区元岡・桑原地区、前原市及び志摩町(H22年1月より糸島市)にまたがる新(伊都)キャンパスへの統合移転を決定し、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」と「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、「アジアを重視した世界の拠点大学」、「日本を代表する基幹総合大学」、「都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学」を目指して整備を進めてきました。

●伊都キャンパスの概要

伊都キャンパスは、東西約3km、南北約2.5km、275ヘクタールの広大な敷地です。博多湾の西、糸島半島のほぼ中央に位置しており、福岡の中心、天神から約15km、公共機関で約40分の距離にあります。

都市の近郊という利便性を持ちながら、玄界灘に望む豊かな自然が残された静謐な環境にあります。また、ここは、古くから朝鮮半島などからの往来が盛んであったことを示す遺跡が数多く存在する歴史

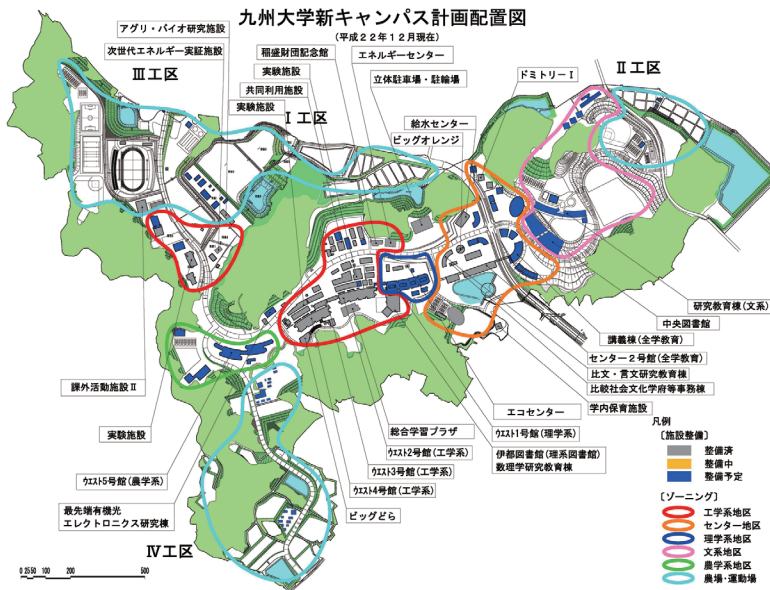


ある地域です。

●移転整備計画

この伊都キャンパスに、箱崎地区(文系、理学系、工学系、農学系等)、六本松地区(全学教育等)、原町地区(附属農場)の3キャンパスを統合移転し、人口約2万人、床面積約50万㎡の施設を計画しています。

2001(平成13)年3月には、長期にわたるキャンパスづくりを一貫して行うための指針である「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」をまとめ、これに沿って各地区の基本設計、建築設計、建物工事を進めています。



●移転スケジュール

移転の第Ⅰステージとして、2005(平成17)年及び2006(平成18)年には、工学系の学生・教職員約5千2百人が移転を完了しました。

移転の第Ⅱステージとして、2009(平成21)年4月には、全学教育、比較社会文化学府・研究院及び言語文化研究院の学生・教職員、同年10月には数理学府・研究院等の学生・教職員、併せて約5千6百人が移転して、生活支援施設関係者等を含めて1万2千人が集う九州大学で最大のキャンパスとなっています。

今後、第Ⅲステージとして、理学系、情報基盤研究開発センター、中央図書館、文系、農学系等が2019(平成31)年までに移転を完了する予定です。

●学術研究都市構想に基づく伊都キャンパス周辺のまちづくり

伊都キャンパス周辺では、伊都キャンパス誕生にあわせてJR九大学研都市駅が開業するなど、九州大学学術研究都市構想に基づくまちづくりが進んでいます。

伊都キャンパスの隣接エリアである元岡地区では、土地区画整理事業による拠点づくりが着実に進められており、2008(平成20)年4月には福岡市産学連携交流センターがオープンして共同研究や連携交流が盛んに行われています。さらに数年後には、民間企業の研究開発施設、学生の住まい、商業施設等の建設が予定されています。

また、キャンパス南口に位置する泊カツラギ地区(糸島市)などでも、学生の住まいや研究所施設用地の整備が着々と進められています。

移転スケジュール

時 期	第Ⅰステージ (平成17～19年度)	第Ⅱステージ (平成20～23年度)	第Ⅲステージ (平成24～31年度)
移転人口累計	約5,200人	約10,800人	約18,700人
伊都キャンパスへの移転部局等	<ul style="list-style-type: none"> ■工学系Ⅰ、Ⅱ ■理系図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ■全学教育 ■比較社会文化学府・研究院 ■言語文化研究院 ■数理学府・研究院 ■理学部数学科 ■伊都図書館(理系図書館) ■高等教育開発推進センター 他 	<ul style="list-style-type: none"> ■理学系(H26) ■情報基盤研究開発センター(H27) ■中央図書館(H29) ■文系(H29、30) ■農学系・その他(H31)

(※第Ⅲステージ移転年度は、財政状況により変動することがあります。)

★もっと詳しく知るには

- ・九州大学伊都新キャンパス情報
<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/>

◆問合せ先

- ・新キャンパス計画推進室 092-642-2208
- ・施設部整備計画課第一計画係 092-642-3862

百周年記念事業

九州大学は、明治44年(1911年)に九州帝国大学として創設されて以来、平成23年(2011年)に百周年を迎えました。これまでの百年にわたる歴史と伝統を礎に、「知の新世紀を拓く」をスローガンとして、百周年記念事業を実施していきます。本学が人類の希求する知を先導し、また新時代のフロンティアを切り拓く人材を育成するため、全学を挙げて本事業に取り組んでいます。

○百周年記念事業と九州大学基金

百周年記念事業では、平成18年度から、学内では百周年記念事業委員会を中心に、学外では学外組織「九州大学百周年記念事業推進会」のご協力を得ながら、企業、卒業生、教職員等の皆様へ募金活動を展開してきました。皆様のご協力のもと、大変多くのご支援をいただいております。

皆様からいただいた寄附金は、すべて「九州大学基金」として整備し、学生、教職員等への様々な支援に活用していきます。

今後、この基金を寄附の受け皿とし、教職員、卒業生、企業など、各方面からのご支援をいただきな

が事業を展開していきます。教育・研究・診療等の環境整備を充実し、社会の様々な分野においてリーダーとなる優秀な人材を継続的に輩出していくためには、十分な資金が必要です。これからは、学内関係者一同が連携し、九州大学基金の充実を推し進めていきます。

○百周年記念行事

九州大学の100年にわたる歴史、伝統を記録に留めるとともに、これまでの教育・研究・診療等の成果を広く発信・公開するため、百周年記念行事を行います。

百周年記念行事は平成23年5月に実施する予定でしたが、平成23年3月に発生した東北関東大震災による我が国の未曾有の非常事態を考慮し、実施を自粛し、延期することといたしました。

なお、延期後の百周年記念行事の実施時期、内容の詳細につきましては、今後決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

<延期する主な行事>

- 九州大学創立百周年 記念国際シンポジウム
- 九州大学創立百周年 記念式典
- 九州大学創立百周年 記念フォーラム
- 九州大学創立百周年 記念祝賀会
- 写真で見る「九大百年」展
- 九大100年まつり
- 九州大学創立百周年 QUウォーク
- 九州大学創立百周年 記念コンサート

(百周年記念事業と九州大学基金の概要)

九州大学百周年記念事業

<コンセプト・スローガン>

「知の新世紀を拓く」

- 100年の伝統を基盤とし、知の新世紀を拓く
- 1.新しい知の創造拠点の構築
 - 2.知のアジアグローバルイズムの先導
 - 3.人類の未来を切り拓くリーダーの育成

<事業概要>

- ・教育研究環境の整備充実
- ・社会人等の受け入れ推進
- ・産学連携、地域連携等の推進
- ・国際交流の推進
- ・百年史の編纂、記念式典等の実施

・皆様からいただいた寄附金は、すべて「九州大学基金」として整備します。

・上記のコンセプト・スローガンの趣旨に沿って基金を活用し、下記の事業を展開します。

九州大学基金

学生・留学生・教職員への支援

- 教育・研究・診療活動の充実とそのため環境整備の支援
- 奨学金等の充実、就学環境・学習環境の充実への支援
- 国際・社会・文化・体育活動充実への支援・助成
- 若手研究者への支援
- キャンパス内の環境整備・美化の支援

卒業生との連携

- 大学との連携活動等の支援、同窓会との連携

社会・企業との連携

- 産学連携・地域連携等の支援
- 生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業

寄附の用途を特定した事業

- 特定目的の研究センターの運営
- 寄附講座の運営
- 対象分野を特定した教育研究支援

その他

- 基金の目的達成に必要な事業

★もっと詳しく知るには

- ・九州大学百周年記念事業ホームページ
<http://100th.jimu.kyushu-u.ac.jp>
- ・総務部百周年記念事業推進課
TEL: 092-642-7397
e-mail: 100thaniv@jimu.kyushu-u.ac.jp